

農推第1149号
平成31年4月16日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（4月）

大阪府内の4月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど、薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>
「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

病害虫防除グループ
ホームページ

防除指針

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稻	P.1
2 果樹(ぶどう、いちじく、温州みかん、もも、核果類(もも、すもも、うめ等))	P.2~4
3 野菜(トマト・ミニトマト、たまねぎ、なす)	P.5~7

水稲

いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を行いましょう！

種子消毒、育苗

種子消毒

薬剤を使用する場合の注意

テクリードCフロアブル、**スポルタックスターナSE**などで消毒する。

消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。

温湯消毒の場合の注意

60度の湯に10分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。

温度ムラが出ないように、時々種子袋を揺する。

育苗準備

育苗箱などの資材は使用前に**ケミクロンG**、**イチバン**などで消毒する。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）



穂の被害



玄米の症状

防除のポイント

特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

苗立枯病



フザリウム菌による苗立枯れ *

防除のポイント

育苗箱での発生を認めたら、**ダコニール1000**（リゾプス菌）、**タチガレエースM液剤**（ピシウム菌、フザリウム菌）、**バリダシン液剤5**（白絹病菌、リゾクトニア菌）、**ベンレート水和剤**（トリコデルマ菌）などをかん注する。

縞葉枯病



ヒメトビウンカ（雌成虫）

特徴

縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。

防除のポイント

育苗ほかにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹

ぶどう

灰色かび病



特徴

多湿条件で発生が多くなる。
胞子(分生胞子)が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
ビニルでマルチングをする。
落花後にグッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

成虫発生初期から終期まで、フェロモンディスプレインサー(ヨトウコン-H)を設置する。
発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

いちじく

アザミウマ類



被害果実

特徴

果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。
発生のピークは5月下旬～6月中旬

防除のポイント

5月下旬からスピノエース顆粒水和剤などを散布する。
ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

温州みかん

アブラムシ類



ワタアブラムシ

特徴

新梢や葉裏に集団で寄生し吸汁する。
被害にあった葉は小さくなったり、巻いたりする。
排泄物が原因となり、すす病が発生し、汚れる。

防除のポイント

発生を認めたら、コルト顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤、スタークル・アルパリン顆粒水溶剤などを散布する。

もも

せん孔細菌病



春型枝病斑

葉の病斑

特徴

春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
葉の傷口や気孔から病原菌が侵入して感染する。
病原菌は雨風により分散して、感染拡大する。

防除のポイント

春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。
アグリマイシン-100、チオノックフロアブル、マイコシールドなどの登録薬剤を10日間隔で散布する。
気象情報に注意し、雨風が強まる前に予防的に薬剤散布をするとより効果的である。

詳細は3月8日発表の防除情報

「せん孔細菌病(もも)の発生に注意」を参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>



核果類(もも、すもも、うめ等)

クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



被害枝



うどん状フラス

特徴

成虫は体長3～4cm(触覚含まず)。全体は光沢ある黒色で、前胸は赤色。6～8月頃に羽化、幹や樹皮の割れ目に産卵し、10日程度で卵が孵化する。

幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬頃～10月頃に中華糞状～うどん状のフラス(木くず・糞・樹脂の混合物)を出す。

フラスが出ている穴には幼虫がいる可能性が高い。

若齢幼虫は中華糞状のフラスを出すことがあり、この時期の薬剤防除が効果的。

特定外来生物のため、飼養等は禁止。伐採樹の処分についても市町村の指示に従うこと。

防除のポイント

伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が分散することを防ぐ。

フラスを見つけたら、**ロビンフッド・ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

伐採後の切株について



エアゾール剤の使用方法



フラスを硬いブラシや千枚通しなどで取り除く



食入孔(フラス排出孔)を探す



食入孔にノズルを刺し薬液を噴射する



薬液が食入孔からあふれるまで注入する

フラスを見つけたら、千枚通し等で突き刺すか薬剤を注入して、内部の幼虫を防除しましょう。伐採樹を焼却処分等のため運搬する際には、必ず逸出防止措置を実施し、掲示板等で公表しましょう。詳しい防除方法等は技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照して下さい。



野菜

4月の病害虫発生状況

品目	程度	発生状況				
		少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)		すすかび病・葉かび病				
		コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病				
たまねぎ						べと病
		白色疫病				
なす		すすかび病・灰色かび病				
		アザミウマ類				

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病・葉かび病



すすかび病

特徴

日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
近年増加傾向にある。葉かび病より、かびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

発生を認めたら、トリフミン水和剤、ネクスターフロアブル、パレード20フロアブルなどを散布する。

コナジラミ類・トマト黄化葉巻病(TYLCV)



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

トマト黄化葉巻病(TYLCV)は、コナジラミ類により媒介される。

防除のポイント

感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
感染株からの二次伝染を防ぐため、除去した株はビニル袋等に密閉して完全に枯死させる。
ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
施設開口部に目合い10.4mmのネットを展張する。

タバココナジラミ

たまねぎ

べと病



早生系統に発生した二次病斑、暗紫色のかびに覆われる

特徴

苗床・定植後に、作物残さなどから感染する。春期に発生する二次感染株は、気温が15前後で、雨や曇りの日が多いと増加する。特に、3月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと、発生が多くなる。

防除のポイント

発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、メジャーフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

発病した株は感染源となるので、抜き取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、石灰等を加えて密封するなど、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

病害虫発生予察注意報第2号

たまねぎ べと病（平成31年2月27日発表）

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/H30nd/H30yosatu.html>



白色疫病



特徴

雨が連続すると発生しやすい。

防除のポイント

発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

注意

【べと病・白色疫病】 リドミルゴールドMZ（3回）

【べと病・白色疫病】 ジマンダイセン水和剤（5回）

【べと病】 ペンコゼブ水和剤（5回）

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。マンゼブの総使用回数は5回以内。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ

特徴

薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤を連用を避け、ローテーション散布する。

防除のポイント

発生を認めたら、ディアナSC、モスピラン顆粒水溶剤、プレオフロアブル、リーフガード顆粒水和剤などを散布する。

なす

すすかび病 ・ 灰色かび病



すすかび病

防除のポイント

適度に換気を行い、湿度を下げる。
発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤（すすかび病、灰色かび病）等を、発生を認めたら、パレード20フロアブル、ネクスターフロアブル、カンタスドライフロアブル（いずれも、すすかび病、灰色かび病）などを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫

特徴

苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

発生が見られたら、ディアナSC、プレオフロアブル、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブルなどを散布する。